行動方針など決る

主婦会が定期大会で

三池主婦会は、二十日労働会館で"第二十二回定期大会"を開催、「命を守る反合理化闘争の強化」「生活を守る闘かい」「子どものしあわせと民主教育を守る」などを柱とする、新年度の行動方針を確立し、新年度の運動をすすめるための主婦会役員を選出しました。

新しく主婦会役員に選ばれた人は次の人びとです。

（敬称略）

会長　島　フミエ
事務局長　平川　弘子
監査　黒木ツタエ
〃　宇野井スエノ
宮浦支部長　岡本タツエ、
四山支部長、百田みや子
三川支部長　斉藤　清子
本所支部長　田中マツエ
港務支部長　大石知恵子

×　×

トシなどのことはいわず
広げよう、運動の輪

固く申し合わせた母親大会

母親大会での全体会議

今年十六回目を迎えた大牟田市母親大会は、二十六日不知火小学校の講堂で、約四百人の母親たちが参加して開催されました。午前中三つに分かれて「教育の問題」「地方自治体と暮らしの問題」「婦人の権利と差別の問題」について討論、午後は前参議院議員の藤原導子さんの「国際婦人年と婦人の生き方」という記念講演を聞き、さらに午前中に話し合ったことを総括、最後に「ゆきとどいた教育ができるため、一学級の児童数を減らし、先生の数をふやすように要求しましょう」など十五項目の活動目標を固く申し合わせたあと散会しました。

なかでも藤原前参議院議員の記念講演は、この日集まった母親たちに深く感銘を与えていました。

「……家が貧しかったため、小学五年で中退し、新聞社の印刷工を皮切りに、努力した結果十五歳で看護婦の資格を得、二十五歳で社会主義運動にはいり、女子の深夜業撤廃のビラ配りして生後六ケ月の子どもを抱いたまま投獄され、暗い戦前を過ごしました。戦後、参議院議員に当選しましたが、努力こそ大切です。

今年私は七十五歳になりますが、これからも中央と皆さんとをつなぐパイプの役割を果たすために努力しています。

とにかく若い婦人の皆さんの努力を希望します。わが国の政治をよくするのは、皆さんの力以外にないのですから……」

藤原さんはまた、「トシをとったとか、活動がしにくくなったなどといわないこと。七十五歳の私でさえなお活動できるから、皆さんの年令ではまだまだ子どもや孫のうち」ともいわれましたが、この際改めて婦人の解放に向けてさらに運動の輪を広げるための努力を強めたいと思います。

〝姿見〟を読んで…

臼井本所分会　一主婦

〝姿見〟は毎回読ませて頂いていますが、受け入れてもらい、交流座談会の時も、炭婦協結成の話になると目がいきいきとし、当時の事が昨日のことのように次々と思い出され、語られ、時間の過ぎるのを忘れ、私達の闘いを正しく理解してもらい、受け継いでもらおうと一生懸命に話し込まれて行き、深まって行く。その時はまさに、三池主婦会であることをしみじみ感じる場面であります。

オルグの人達も、日頃職場で地域で、生活と権利を守り闘い続けている話を聞き、労働者はどこにいても立場は同じであることがそこで理解でき、交流してよかったと思うのです。

本部役員、支部役員、分会役員の人は大変苦労があると思いますが、今後も交流会は続けてもらいたい、と思っているところです。

そのためには私達主婦会活動も、さらに活発にし、グループ活動でなく組織的な活動でなければできない、と反省しているものです。

オルグ受け入れについても分会員の協力により気持よくなっった、申し合わせた事項のおもなもの。

母親大会で――申し合わせた事項

▼…こんどの母親大会できまった、申し合わせた事項のおもなもの。

教育問題

▼ゆきとどいた教育ができるため、一学級の児童数を減らし先生の数をふやすように要求しましょう。

▼給食パンのリジン使用中止を要求しましょう。

地方自治と暮らし

▼三歳未満児の医療費現物支給実現のための運動をすすめましょう。

▼食糞監視体制の強化を。

婦人の権利と差別

▼国際婦人年を機会に、婦人自身差別意識にめざめ、男性とともに婦人解放運動をすすめましょう。

（大半の項を割愛しました）

配転して去った友へ

惜別の思いを込めて――

三川指導部　町　佳郎

梅雨の中休みとでもいうのでしょうか、ここ二、三日、きびしい暑さがつづいています。あちこちに鳴き始めた蝉の声にも、もう本格的な夏の訪れを感じる今日今頃です。

配転後二週間、もう新しい職場に慣れたでしょうか。もっとも、これまでもまったく知らなかった職場ではないし、それぞれに知った仲間ばかりですので、気持的にも心安くはいることができたのではないかと思います。

先日のあなたの送別会兼激励会には、私用のために出席できなくて申し訳ありませんでした。残念でした。あとで職場の人達からその時のもようを聞きましたが盛況だったとのこと、あなたとしてもほんとうにうれしいことだったでしょう。

ところで、今度の配転については、あなたも自分なりに多くの煩悶があっただろうと思います。しかしまだ若いあなたにとっては、自分の健康と相まって、これからのことを考えた場合、安心できる職場であってみれば、そのことをむしろ喜ぶべきでしょう。これからは少なくとも、これまでのような自分の病気についての心配はいくらかでも軽くなり、あなたの生活にも、新たな潤いが生れるものと思います。

しかし今の私にとっては、あなたの配転によってやはり淋しさを否定することはできません。職場の仲間達の胸の中にも、それぞれに同じ思いがあるようです。でもそのことに拘泥していてはいけないのでしょう。これからのあなたの健康を祈ることこそ、ささやかな私の思いやりだと考えるのです。このようにペンを取りながらも、長い闘病生活をのりこえ、新しい職場でのあなたの元気な様子を思い描いています。

しかし私はいま、いろいろの思いに捉われています。それは単なる私の感傷とは違ったこれまでのあなたのたしかな足跡に対する、私のありのままの感情の吐露だといえましょう。職場におけるこの数年間、いろいろの形であなたに接してきた私にとっては、たしかな形として多くのことが思い浮んでくるのです。

私は、これまで職場でのあなたを中心としたさまざまのたたかいを忘れることはできません。

あなたは分会長として精一杯、責任を果してきました。いつもみんなの先頭に立って頑張ってきました。時には苛責ない職制への攻撃と、分会員全体への深い思いやりは、改めてあなたの立派さとして思い返されるのです。

ひたむき、という言葉を御存知でしょう。いま、私はこれまでのあなたの行動を静かにふり返ってみて、この言葉を強く感じるのです。あなたのものの考え方、行動のすべてにあてはまると思えるこのひたむきさが、あなたの性格的なものであることは否定できないでしょう。とにかく職場のこれまでのたたかいのすべてに、また度会員一人ひとりに接するあなたの態度に、それを見ることができるように思えます。職制もある種の脅威を感じていたにちがいありません。

それと同時に、あなたは分会員一人ひとりへのきめ細かな配慮を怠りませんでした。それはあなたが常日頃持ちつづけ、またもっとも大切なことと考えていた、多くの労働者への暖かい思いやりの表われではないでしょうか。そのようなあなたに包まれて分会員それぞれが、あなたをもっとも安心できる支えとして感じていたのではないかと思います。

しかしその反面、その言葉の持つ意味が、これまでのあなた自身にとって、報われることの少ないものとして感じられないことはありません。これまでの精一杯の職場での活動の陰に、私にもとうてい理解できない苦労が多々あったことはいうまでもありません。その時、その時に起きる問題をかかえ、ある意味ではきびしすぎると思える程の苦悩をかみしめていたように思えます。まして健康に自信のないあなたにとっては、なおさらのことだったでしょう。

しかしあなたは笑いを忘れず、いつもみんなの中にありました。そしてそれらの苦労をまるで自分に課せられた使命感ででもあるかのようにその責任を果してきました。おそらく、あなたの心の中には労働者としての不動の信念が存在し、それがあなた自身の誇りとして常にあなたを勇気づけていたのではないでしょうか。いつもしいたげられつづけているわれわれ低辺の労働者にとって、お互いの連帯がいかに大切なものであり、それなくしては真の解放もあり得ないことをあなたはこの数年間、身をもって示したといえましょう。

あなたにとっては、今度のことが自分の病気のためだとはいえ、中途で職場をはなれる心残りを強く感じていることでしょう。でもいまのあなたにとっては、もうそのことを考えなくてもいいと思います。もっと心を大きく持つべきです。たとえ職場は違っても、たたかいは常に同一線上にあり、お互いの心と手はしっかりと握り合わされているはずですから――。

今度の配転が、病気の全快によってもたらされたものでないことはいうまでもありません。それだけにこれからもあまり無理をしないように健康にはくれぐれも気をつけて下さい。これまでのあなたの思い出は、あなたを中心にしてみんなでたたかったこれまでの数かずの成果とともに、仲間達の胸の中に消えることはないでしょう。ほんとうに長いあいだ御苦労さんでした。

暑い日射しの中で、仲間達とともに今日も無事に仕事を終えることができました。あなたも無事に仕事を終えたでしょう。あなたの職場に向って呼びかけた私の御苦労さんの声が、かすかにでもあなたの耳もとに届いたでしょうか。

新たな喜びがあなたの一家に多く訪れることを祈りながら――。

さようなら

池畑重富様

町　佳郎

米高官発言集

6・20　シュレジンジャー国防長官「韓国に戦術兵器を配備しており、北からの侵略があれば、その核を使用する可能性も……」

6・25　フォード大統領「われわれ自身の国家利益に基づいて、戦略的もしくは戦術的な抑止力を柔軟に発動する」

7・8　ワシントンポスト紙「米軍は小さい事件に対しても、核兵器を使用する用意をしている」